

# 令和4年度 自己評価報告書

学校法人桜丘学園 専門学校ファッションカレッジ桜丘

## 基準1. 教育理念・目的・人材育成

桜丘学園は豊かな人間性を身につける「人間教育」を重視している。いかに多くの専門的な知識を身につけても、人間的な魅力が無ければ職業人として大成することは叶わない。人間的な魅力を高めるにはいかに多くの友人を作り、コミュニケーションを図ることで信頼関係が醸成され相互に人間的な魅力が高まると思う。新型コロナウイルスの影響でコミュニケーションの機会やグループワークなど協力して何かをやり遂げる機会が減り、個別学習の結果から個人主義が台頭する中で、学園内でいち早く平常の教育環境を確保することに注力した1年だった。

## 基準2. 学校運営

第七分野（服飾・家政）ファッション専門課程及び第一分野（工業）デジタル専門課程の2課程体制で教育の幅を広げることができ、学校運営の安定化の基盤を作った。しかし、新型コロナウイルスの影響を受け、入国する外国人留学生の大幅な減少により、デジタル専門課程の学生確保が苦戦した。当初より、外国人留学生の入国規制がかかっていることは認知していたが根本的に責任感と危機感の欠如により、対応が遅れ、最悪の結果を招いてしまった。

## 基準3. 教育活動

新型コロナウイルスの影響を受け、世の中の生活様式が変化した。接触から非接触へ。対面からリモートへ。外食からデリバリーへ。ファッション産業もZozoタウンやamazon、楽天に代表されるようにインターネットでの販売が全体の20%、2兆5千億円にまで拡大した。また、宣伝、販売促進手法も紙媒体の雑誌からInstagramに代表されるソーシャルネットワーキングサービス（SNS）が主流になりつつある。世の中全体がアナログからデジタルへシフトチェンジしている。こうした中、ファッション専門課程では従来の教育カリキュラムでは実践で活躍するスキルを身につけられないと判断し、eコマースやSNSマーケティング、ファッションWEBビジネスの授業を拡充して対応にあたり、就職活動で成果を示した。デジタル専門課程では、プログラミングの授業を1年間から2年間学べるように再編成し、習得言語も増やした。eコマースの授業ではネットショップ検定実務士補の試験を実施、また、コンピュータワークでも情報処理技能検定試験を実施し高い合格率の結果を残しパソコンスキルの向上に寄与した。

## 基準4. 学修成果

学習成果の可視化の一環として実施している各種検定受験推進は継続している。ファッションクリエイティブ科が受験するパターンメイキング検定3級は従来2年生が受験しているが、本年度は1年生に受験希望者があり、放課後専科を実施して教育をし全員合格に至った。学習に対する前向きな姿勢は高く評価できる。2年生の3級合格率は91%と昨年の86%を上回った。ファッションビジネス科の1年生が受験するファッション販売能力検

定3級は合格率82%、昨年88%でわずかながら低下。2年生の3級は合格率25%、昨年も25%と低迷が続いている。1年生が受験するファッションビジネス能力検定3級は合格率30%、昨年82%と大幅に低下、原因はつかめていない。2年生の2級は合格率27%、昨年25%とファッション販売能力検定同様に低迷している。色彩技能パーソナルカラー検定モジュール1、の合格率は75%、モジュール2も89%と高い合格率を確保した。デジタル専門課程の日本語能力試験（JLPT）はN1が1名、N2が5名で大幅減、やはり新型コロナウイルスの影響で日本語能力が低下している。日本語能力試験以外にも新規に検定を実施。ネットショップ検定実務士補の合格率は85%、情報処理技能検定試験は90%と高い合格率を残した。成果発表のプレゼンテーションの機会も昨年同様実施、論理的思考や表現力、ストレス耐性に寄与している。学内2大コンテストであるファッションビジネス科2年生を対象とするFCSプロモーションコンテストは2月に開催し、同月開催のファッションショーでの作品を評価するFCSファッションコンテストは3年ぶりに一般のお客様をご招待しグループ賞を選出していただいた。また広く学習の成果をご覧いただくためInstagramLIVE配信を実施した。就職支援に関しては、新型コロナウイルスの感染状況も収束に向かいつつあり、ファッション専門課程の就職率は75%と昨年を5ポイント上回った。デジタル専門課程の内定率は65%と昨年より低下傾向。

#### **基準5. 学生支援**

1年生の37%、2年生の19%が奨学金や就学支援制度を必要としている。令和4年度も高等教育の就学支援新制度の認定を受けて金銭面での学生の支援体制を充実させることが出来た。また、就職支援に関してもリモートと対面とのハイブリット型の企業が多く、学内施設、設備を使っての就職活動を希望する学生が多く、リモート説明会、リモート面接、リモートグループディスカッションの対応やエントリーシート作成、模擬面接練習など手厚くサポートができた。

#### **基準6. 教育環境**

新型コロナウイルスも収束が見え始めた為、学内での授業以外に校外学習の機会を増やすことができた。直接企業に訪問し、展示会を見学したり、直接企業の担当者からレクチャーを受けることでより臨場感のある教育が実践できた。また、デジタル専門課程では、特定技能の資格取得の説明会や留学生受け入れ企業の説明会などより、就職を意識した特別講義を実施することができた。

#### **基準7. 学生の募集と受入れ**

ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）に精通しているコンサルタントと契約し、学生募集の見直しに着手。学園の競争優位性や弱点を検証。PR方法などを検討し、次年度に向けた広報活動戦略を立案した。また、学生全員へのヒヤリングを実施、学生の満足度調査も兼ね学園の良いところ悪いところを顕在化し学生募集にもつなげる情報とした。ファッション専門課程の学生募集は例年と大きな変化はなく、デジタル専門課程は、留学生の入国制限の煽りを受け入学者数を大幅に減少する結果となった。

#### **基準8. 財務**

18歳人口の減少。専門学校第7分野（服飾・家政）に進学を希望する学生が1万6千人を割り込むなど、ファッションの地盤沈下が著しい状況で、留学生教育のITコースを立ち上げ、経営の安定化を図ったが、新型コロナウイルスの影響で振り出しに戻った。資産運用面でも米国の金融引き締めの量的緩和停止とインフレ抑制のための利上げにより、不安定な相場環境となり想定したキャピタルゲインを得ることができなかった。市場の同行が見通せない為、分散投資を計ったが相場全体が低迷でリスクヘッジにはならなかった。

#### **基準9. 法令等の遵守**

文部科学省、東京都、千代田区からの通達や情報は、定例の役員会議、教職員全体会議、教員会議の場で常に情報は共有されている。また、日常ではA l r i t C l o u dを活用して迅速に情報を共有するシステムを活用している。昨今、若年層がソーシャルネットワーキングサービスに不適切な投稿をして社会問題化している。学園でもソーシャルメディアの利用に関する注意をソーシャルメディアポリシーなどの作成により注意喚起していきたい。

#### **基準10. 社会貢献・地域貢献**

SDGsやサステナブルファッション、ソーシャルビジネスなどどのように教育の現場に落とし込むか、産学協同プロジェクトの場合は一過性であり継続性に乏しい面があった。高校生の関心の高い衣装製作をカリキュラムに導入する方法を模索する中でデジタル専門課程でプログラミングをご教授頂いているL a n c e D i g i t a l S t r a t e g y社がアイドルを育成しており、そのアイドルグループがSDGsを分かりやすく伝える普及活動のプロジェクトに参加していることが判明。SDGs17のゴール「7：作る責任、使う責任」持続可能な消費と生産のパターンを確保するをテーマにアイドルグループ、青山R a b n e s sの衣装を製作してそのプロジェクトを応援するカリキュラムを構築。2030年のゴールに向けた長期的な社会貢献活動が推進するカリキュラムのプロセスが完了する。